



ななつかの風

畜産技術センターニュース

発行事務局

●広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町 584 番地
TEL 0824-74-0331
FAX 0824-74-1586

インターンシップ来る

ここ数年、当センターは、夏休みの時期になると畜産・獣医系大学の学部生によるインターンシップを受入れております。今年も8月22日に宮崎大学の獣医学科5年次の2名がセンターに来られました。

最初に、技術支援部がセンター概要、公務員獣医師の動向を説明した後、飼養技術・育種繁殖研究部の研究内容について説明を行いました。午後からは、牛舎や施設を案内し、試験研究の業務内容について理解をいただきました。2名の大学生は、メモを取りながら、熱心に研究員の説明を聞いていました。



〇〇学園問題で国会に取り上げられ、世間に認知されるようになったとおり、公務員獣医師希望者は少ないのが実情です。このような優秀な学生の方には、2年後には是非、本県職員として入庁していただきたいものです。

中国四国畜産関係場所長会の開催

8月24日(木)、中国地方5県と四国4県持ち回りで開催している畜産関係試験研究機関場所長会が、今年度は広島県担当ということで9年ぶりに広島市で開催しました。



会議では、広島市中区袋町の広島市まちづくり市民交流プラザに於いて、現在、各県で行っている研究課題、大学や他県との連携研

究など各機関が重点的に研究している課題の紹介や今後の方向性などを中心にトップ会談を行いました。

中でも、本県が昨年度から実施している経膈採卵技術を利用した牛体外受精胚1,500胚生産・供給の実現は、各県からその個数に驚きの声が上がるとともに、本県の仕組みや人員体制に多く質問が寄せられました。

昨年度から、育種繁殖研究部を中心として、多くの問題を乗り越えながらここまで辿り着いた成果であり、今後も農林水産局畜産課事業の着実な推進に結び付けばと考えております。

この会議の準備を本年4月から手探り状態で行い、やっと当日までこぎつけることができました。

会議終了後は、他県の皆様方と広島県のお酒やお好み焼き、牡蠣を堪能しながら夜遅くまで懇親を深め有意義な一日となりました。

英数学館小学校見学の実施

9月13日に福山市にある英数学館小学校5年次・6年次22名の児童さんたちが、センターの見学に来られました。

技術支援部職員による牛の基本的な説明のうち、普段は、一般の方の立入りを禁止しているゾーンに入り、県内で唯一飼養している



黒毛和種雄牛を見学し、育種繁殖研究部の山根研究員が牛の大きさや名前の付け方などについて説明しました。児童さんたちは、その大きさに圧倒(雄牛の体重は約800kg)されていました。

県内に2機しか導入されていない、自動搾乳装置で牛乳が搾られるのを見学したのち、自分の手で搾

乳を体験しました。

まず、センター職員が乳首の模型で搾り方を説明し、乳搾りの手本を示したのち、全員が実際に乳首を手で包み牛乳を搾りました。



皆さんがお店で購入する牛乳は、このように生きた牛から毎日搾られていることを体感していただきました。

この牛の温かさ（体温）と乳首の柔らかさを覚えておいてくださいね。

当日は天気にも恵まれ、気持ちの良い七塚原高原のひと時を過ごしていただくことができました。

旧本館(続報)

前回のニュースで皆様方に、旧本館の現状についてお知らせしましたが、反響がありました！尾道市立大学非常勤講師の渡邊義孝先生から連絡をいただき、建物保存についてのご提案をいただきました。

尾道空き家再生プロジェクトにおいて、「みはらし亭」の再生などの実績を持ちの渡邊先生から、ご連絡をいただけたとは思ってもおきませんでした。

9月13日に建物の外貌と内部（一部分）の状態

を見ていただきました。

我々のような建築

学の素人には判らなかった細かな点や建物の特徴を教えてください、改めてこの建物が丁寧に建築され

たものであることを実感しました。

まずは、記録保存のための設計図を作成することから取り組むこととなりました。

先生は、旧本館が「貴婦人のように美しい」

とおっしゃっており、この貴重な建物が、庄原地区の財産として活用できるよう道を探っていきたいと考えております。



第11回全国和牛能力共進会が無事終了

9月7日から宮城県仙台市で開催された和牛のオリンピックが終了しました。結果は、わが県も健闘しましたが、九州勢が圧勝というものでした。

種牛の部には、当センターから未来の種雄牛候補である、大柴1と立烏帽子12を出品し、無事、宮城県から帰ってきました。

2頭とも、優等賞をいただくことができました。



大柴1は、センターの金ヶ江主任研究員がほれ込み、生産者に直談判して、センターに導入した美しい雄牛です。種雄牛調教育成の第一人

者である庄原市の羽賀徹さんに丁寧に仕上げられ、品位ある雄牛となってセンターに戻ってまいりました。

この牛たちが将来の広島県の和牛界を背負って活躍することを期待しております。



編集ひとりごと

5年に一度開催される全国和牛能力共進会も無事終了し、ほっとしております。

ただ、研究員は来年度の新規研究課題提出などまだまだゆっくりお月見とはいかないようです。

By おがっち